

## 日本ベントス学会運営委員会議事録（2009年度第2回）

日 時：2009年10月16日（金）15:00～18:00

場 所：北海道大学 水産学部講義棟 8 番教室

出席者 風呂田利夫、青木優和、大越和加、木村妙子、五嶋聖治、佐藤正典、山本智子、松政正俊、仲岡雅裕、堤裕昭、逸見泰久、高田宜武、木暮陽一

### 報告事項

1. 庶務報告：高田事務幹事より庶務報告が行われ、併せて現在の会員数について報告があった。10月1日現在、名誉会員1名、正会員一般419名、正会員学生99名、賛助会員3件、団体会員12件、定期購読者18件、会誌寄贈先10件。また、五嶋2009年度大会実行委員長から大会の参加発表登録数について、報告があった。
2. 会計報告：木暮会計担当から、2009年度の会計中間報告がなされた。バックナンバーの収入が予算より多いのは廉価販売を開始したためであること、海産外来種に関する出版助成は年度内に支払いがあるはずであることなどの説明がなされ、了承された。
3. 英文誌編集委員会：堤英文誌編集長より、Plankton and Benthos Researchの編集刊行状況について順調との報告があった。
4. 和文誌編集委員会：松政和文誌編集長より、日本ベントス学会誌の編集状況について、投稿数が少ないものの順調だが、和文誌64に訂正があるのでPBR4-4に訂正シールを挟み込む予定であるとの報告があった。また、日本ベントス研究会連絡誌の創刊号から2007年度までに公開された論文については科学技術振興機構のジャーナルアーカイブにて公開が開始されたこと、英文誌のBenthos Research（1999 - 2005）についても登録申請が認められたことが報告された。
5. 自然環境保全委員会：逸見委員長より、10月1日に委員会名で「上関原子力発電所建設工事の中断を求める緊急声明」を中国電力宛に提出したことが説明された。学会創立20周年事業の一環として「干潟動物ベントスレッドデータブック（仮称）」の編纂と刊行を目指す事業が提案され、財源として2010年から2012年までの3年を年限とした特別会計予算が提示されたため、審議に回された。
6. 自然史学会連合：担当委員の柳氏が不在のため事務局より、自然史学会連合の講演会として石川県立自然史博物館で「未来に残したい日本海域の自然史遺産」（11月7～8日）が開催されると報告された。
7. 東京湾研究委員会：担当委員の風呂田会長より、特段の報告事項はないとされた。

8. 沿岸環境関連学会連絡協議会：担当委員の仲岡氏より、シンポ「有明海貧酸素水塊の実態と要因」（10月31日）の開催が予定されており、当学会の堤氏が講演者の一人であることなどが報告された。
9. 海産外来種研究連絡会：担当委員の風呂田会長より、連絡会立ち上げの経緯の説明があり、初回の連絡会では日本プランクトン学会の広海氏、日本藻類学会の堀口氏、および当学会から風呂田氏がそれぞれ代表の派遣委員として出席したこと、初年度と次年度の事務局を当学会が担当すること、海産外来種の情報整理等を主な活動内容とすること、連絡会への学会からの経費負担はないことなどが、報告された。
10. 韓日干潟シンポ：堤委員より6月19日～23日に韓国の順天市で開催されたKorea and Japan Joint Symposium on Biology of Tidal Flat 2009の報告があった。シンポには、日本側参加者35名、韓国側参加者34名、ほか計100名程の参加があり、派遣支援をうけた5名の若手参加者を含めて、基調講演5題、17口頭発表17題、ポスター発表45題の研究発表なされたとの紹介があった。干潟共同調査のフォウナリストの作成が目下の課題であるとの報告がなされた。
11. その他：1) プランクトン学会と合同で編集を進めてきた「海の外来生物」（東海大出版会）が、10月20日付けで発行され、今回の合同大会会場で販売予定であることが報告された。  
2) JSTのジャーナルアーカイブでバックナンバーが公開されたことに伴い、学会HPからジャーナルアーカイブへのリンクが作成された。

#### 審議事項

1. 海産外来種研究連絡会派遣委員の承認：海産外来種研究連絡会への派遣委員として、風呂田氏、岩崎敬二氏、大越健嗣氏、大谷道夫氏、中山聖子氏の派遣が2011年3月までの任期として承認された。連絡会は外部の学会との共同の活動であり、当学会の自然環境保全委員会も協力することとなった。
2. 大会での学生発表賞の設立と運営：風呂田会長から、今年度より「日本ベントス学会学生発表賞」として大会における口頭及びポスター発表のうち優秀な発表を行った学生について表彰を行うことが提案された。プランクトン学会では昨年度から発表賞が設立されていることから当学会でも同調する必要が検討され、関連する表彰細則の変更を含めて審議ののち、承認された。実際の運営については、大会実行委員会で検討するとして実行委員長である五嶋委員に一任された。
3. 学会創立20周年特別会計：逸見自然環境保全委員長より、「干潟動物ベントスレッドデータブック（仮称）」の編纂を特別会計の事業として執行する案が提案され、審議の結果、2010年から2012年の3年間に150万円の支出を伴う特別会計が承認された。
4. 2009年度残期予算案：木暮会計担当より残期支払いの見込みについて説目され、承認された。

5. 2010年度予算案：木暮会計担当より、特別会計、選挙事務費、事務局移転費、および事務アルバイト費の新設増額により例年より支出が増大することが説明され、承認された。
6. 2010年度大会開催地について：来年度の合同大会は千葉県での開催予定であることが説明され、承認された。
7. その他：1) 和文誌の年2回発行、短報の掲載、J-stageでの新規刊行論文の公開について、ML上でアンケートを実施し検討を進めることとなった。2) 今年度韓国で開催された干潟シンポについて、同様のシンポを継承して開催するかどうか検討することとなった。3) 各地に分散しているバックナンバーの在庫整理について、事務局に一任することとなった。4) ジャーナルアーカイブで公開されたバックナンバーに対し、外部リンクを進める方向で検討された。5) 来年度より東大海洋研の小島会員のもとへ事務局を移転する方向で検討を進めることとなった。また、学会HPのサーバについても移転を検討することとなった。